

大阪 あんなとこ こんなとこ

『森之宮』

森之宮は、上町台地の北東端に位置し、大阪市中央区・城東区・東成区の三つの区を跨ぐ
一帯の地名です。大坂城公園がある為、地名どおり大阪市内で特に緑の多いイメージのあ
る所です。今回は、森之宮について調べてみました。

鶺鴒森宮

鶺鴒森宮は、通称『森之宮神社』といい、聖徳太子により創建された神社です。当時は、
本殿、拜殿、楼門にいたるまで目を見張るほど華麗で四方の崇敬篤い神廟でした。

上古、この辺りの森は「難波の杜」と呼ばれていました。崇峻天皇二年（589）七月、
聖徳太子は物部守屋との戦いの勝利を祈願し、勝った暁には四天王を祀る事を誓いました。
その戦いに勝利し、父母である用明天皇と穴穗部間人皇后を祀り、大伽藍（元四天王寺）
を玉造の岸に創立したのだそうです。その後、推古天皇元年（593）九月、四天王の像
及び伽藍は残らず現在の荒陵山（四天王寺）に移しましたが、諸堂の御鍵はそのまま現地
に残ったと伝承されています。『日本書記』に「推古天皇六年（610）夏四月、鶺鴒二喉
を難波の杜に養はしむるは則此の地なり」とあり、聖徳太子の命により新羅へ渡った吉士
盤金（二羽の鶺鴒を持ち帰り、難波の杜で飼ったという記述が残っています。その「難波の
杜」が鶺鴒森宮の森であるとされることから「鶺鴒の森」と呼ばれるようになり、後に森之宮
と呼ばれ、地名の由来となったといわれています。鶺鴒の森は、江戸時代の『摂津名所図絵』
や『浪花百景』にも紹介されています。

森之宮遺跡

森之宮付近一帯には、縄文時代中期から江戸時代までの複合遺
跡である森之宮遺跡が広がっています。この遺跡は、昭和35年（1
960）頃、付近の工事中に土器が出土し、昭和46年（1971）
から4次に渡り発掘調査が行われました。調査の結果、縄文から
弥生時代の河内平野の形成過程やその地層の上に古墳時代、難波
宮時代、中世から豊臣時代の地層が連続して存在する所から大阪
の歴史や文化を解明する上で貴重な資料となったそうです。遺跡
の上に建つピロティホールは、遺構や遺物を保存する為に特殊梁
によるピロティ方式（高床式）を採用した全国でも珍しい劇場だ
そうです。



森之宮遺跡の上に建つピロティホール

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞